

## カーボンニュートラル 自工会発信メッセージ

### ① 自工会は「2050年カーボンニュートラル」に全力でチャレンジ

▽昨年の政府宣言を受け、最初に決めたのは、  
「自工会は2050年カーボンニュートラルに全力でチャレンジする」事。

▽日本の自動車産業は、過去20年、世界に先んじた電動車ラインナップ拡大・普及努力により、  
CO<sub>2</sub>を5000万トン以上、▲23%と大幅に削減してきた。 […別紙1](#)

CO<sub>2</sub>削減▲23%は、国際的にみても、極めて高いレベルで世界に先行。 […別紙2](#)

▽カーボンニュートラルに向けて全力でチャレンジするが、自動車業界単体で達成は難しい。  
全国民・全産業が足並みを揃えて取り組むことが不可欠。

### ② 「カーボンニュートラルの本質を正しく理解する」事から始める

[<ご参考：カーボンニュートラルの基礎知識A4版 \(PDF:16MB\)>](#)

#### 「ライフサイクルアセスメント」(LCA)の考え方の重要性

▽「つくる」「運ぶ」「使う」「廃棄する」それぞれの工程でエネルギーを消費し、CO<sub>2</sub>が発生。

ライフサイクルアセスメント(LCA)の考え方で、それぞれの工程のCO<sub>2</sub>排出量を評価し、  
削減をしていく事が必要。 […別紙3](#)

▽現在のエネルギー状況では、車両走行時だけでなく、エネルギー製造時、車両製造時にも  
CO<sub>2</sub>が発生しており、まずはエネルギーそのものをカーボンニュートラルに近づける事が必要

[…別紙4](#)

#### 「カーボンニュートラル」は雇用問題でもある

▽日本は、火力発電比率が75%と高く、「エネルギーをつくる」ところでたくさんのCO<sub>2</sub>を排出。  
再生可能エネルギーのコストも高い。 […別紙5](#)

▽LCAでのCO<sub>2</sub>規制が強化され、製造時CO<sub>2</sub>排出の多い日本生産のクルマが輸出できなくな  
れば、約100万人の雇用を失う可能性。雇用と共に経済にも大きな影響が出る。 […別紙6](#)

### ③ 今は選択肢を広げる時。政策決定において「順番を間違えないでほしい」

▽エネルギー事情や強みを踏まえた、日本らしいカーボンニュートラルの道があるはず。

今は技術の選択肢を広げ、お客様の選択肢を広げる時。

敵は「炭素」。規制によって出口の選択肢を狭めないでほしい。

#### ④ 自動車を「ペースメーカーに」

▽全国民・全産業が足並み揃えて取り組むカーボンニュートラルにはペースメーカーが必要

▽自動車は多くの産業と関わる「総合産業」であり、クルマというリアルなモノがあるからこそ、自動車を軸にすると、納期と課題が分かりやすくなり、行動の連鎖が生まれていく。

▽さらに自動車は、多くのお客様との接点を持つ「B to C」の産業。

お客様の価格相場観がわかり、原価低減を進めながら、お客様のライフスタイルをカーボンニュートラル化していくという意味でも、自動車がペースメーカーの役割を担えると思っている。

▽「プラクティカル&サステイナブル」をキーワードとして、日本に最適な道筋を求めて動き続ける自動車業界を、ペースメーカーとして応援頂きたい

#### ⑤ 雇用と暮らしを守りながら、みんなで前に進んでいく

▽私たちには、550万人の仕事と生活を守るミッションがある。

誰かの犠牲のもとに、限られた人だけが未来にたどり着くような選択肢は取りたくない。

▽雇用と暮らしを守りながら、地球のため、次世代のために、みんなで前に進んでいきたい。

経済波及効果の大きい自動車が発展し続ければ、日本全体への貢献にもつながっていく。

これが私たちの根底にある想い。共感する仲間を増やして、一緒に行動していきたい。

<[ご参考:自動車産業の経済貢献](#)>

以上